

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0270201296		
法人名	社会福祉法人緑風会		
事業所名	グループホーム太陽の里		
所在地 (電話番号)	〒036-8112 青森県弘前市堀越字柳田3-12 (電話) 0172-29-3777		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年9月3日	評価確定日	平成21年10月31日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 7.15人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,600 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期7,500 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	84.5 歳	最低	70 歳
		最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤取上内科・小児科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は、田園風景が見渡せる自然に恵まれた立地環境にあり、併設施設の「ほりこしデイサービスセンター」へは渡り廊下と扉一枚で移動でき、センターの温泉を利用できるようになっている。玄関を入ると法人・事業所の理念が掲示されている。リビングルーム、食堂等も清潔で明るくゆったりとしている。職員は、入居者一人ひとりと、安心と信頼を得られるように穏やかに接しており、利用者は理念に添った介護のもと家庭的な雰囲気の中で過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	他事業者と交流を図る事が検討課題にあったが、地域のグループホーム協会に加入し同業者との交流を図るネットワーク作りに努力している。他事業所への訪問計画があり相互訪問活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員が協力しながら自己評価を行うことで評価の意義を理解し、サービスの質の向上に向けての取組みをしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、市の担当者、町会長、民生委員、消防団等の関係者が出席している。避難訓練、外部評価の報告、出席委員の意見等を活かしサービスの向上・地域に根ざしたホーム作りに取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	面会時及び「ほりこし便り」で日常の様子を伝えている。金銭管理については毎月出納明細書を手渡す取組みをしている。また、運営推進会議は各家族に案内をし出席を呼びかけ、意見を吸い上げる場を設けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行われる敬老会、神社大祭に参加する等近隣との交流が図られている。また、町内会の総会を利用して隣接のデイサービスセンターと協力して介護教室を開催し地域貢献に努めており、今後も運営推進会議等を活用して地域との連携を深めていくことを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員話し合いのもと、利用者、家族、地域との信頼関係を大事にする理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールの玄関近くに法人の理念とグループホームの理念が掲示されている。また、職員の名札の裏に理念が記載されており、法人の理念は毎朝職員が復唱している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の敬老会、神社の大祭に参加したり、隣接のデイサービス利用者から菜園作りを教わるなど地域との交流を図っている。また、隣接の居宅事業者と協力し町会の総会時を利用して介護教室を開催し、地域貢献をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し合い、改善事項に向けた取り組みを行っている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者及び家族、職員、町会長、民生委員、消防団長等が出席し連携を深めるとともに事業内容、外部評価での改善点等を報告しサービスの向上に努めている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当者を訪問し、運営の実状等を伝えており、いつでも相談できる状態にある。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人本部の職員会議で学んでおり、必要があれば対応できる。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止読本を配布し全職員が学んでいる。また、日頃から言葉遣いに気配りし、虐待防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族には事前訪問し、不安や疑問点を十分に時間をかけて説明し、同意を得た上での契約、解約を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には日々の状況報告をし、金銭出納状況については毎月明細書を渡している。面会のないときは「ほりこし便り」で近況報告と出納帳の写しを送付している。緊急時には電話で連絡できる体制にあり、職員に異動があるときは家族に報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議は全家族に案内を出しており、出席されない家族からは面会時に意見を聞いている。また、玄関に苦情・意見箱を置き意見の吸い上げを図っている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は利用者に知らせている。寂しさを訴える時は寄り添い、会話をもって利用者へのダメージを軽減するよう努力している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修に参加した場合、その結果を園内研修や月1回事業所内での勉強会を行い資質向上に努めている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の研修やネットワーク作りに努めている。また、管理者は他事業所と連絡をとり合い情報交換することでサービスの質の向上を図り、他事業所からの訪問も受けている。</p>		<p>本年度、他事業所の訪問計画があるので相互訪問活動を通じてサービスの質の向上が図られることを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者に事前見学をしてもらったり、事前に話し合いをして信頼関係を築き、入居当初は家族の面会を多くし安心して馴染めるように対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩という考え方で接しており、一緒に菜園作りを楽しみ、調理も協働しながら和やかに生活できるような配慮が感じられる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に沿えるよう、日々の会話の中から本人の意向の把握に努力している。利用者のアセスメントツールとして活用できるセンター方式の導入を試みている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望を把握し、ケース担当者、職員、看護師、介護支援専門員参加のもとでケア会議を開催し介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回見直しを行うとともに、必要に応じて家族等と連絡をとり随時見直す方針で対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の状況の変化に応じた通院介助、外出支援等本人の要望に沿うような対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。また、看護師がかかりつけ医との連絡をとり適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は医師の意見を伺いながら、家族と何度も話し合い、方針を決め共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに個人を尊重した声掛けをしており、ケース記録は鍵のかかる場所に保管し、利用者の尊厳、個人情報の保護に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調に合わせ、意向を尊重し、無理のないよう希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と利用者が丸テーブルを囲み会話を楽しみながら一緒に楽しく食事が出来るような雰囲気づくりに配慮している。片付けもその人に合った方法で職員とともに行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週に最低2回の入浴としているが、入浴ができない場合は翌日にするなど健康状態に合わせて調整している。隣接のデイサービスセンターの温泉も楽しんでいる。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴を把握しており、本人の趣味や能力を生かせるような取組みをしている。書道、菜園づくり、食事、お菓子づくり、花の手入れ等利用者が楽しみながら出来るよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物やドライブ、ホーム周りの散歩、菜園の草取り、外食等個々の希望に沿うよう日常的な外出支援に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロの手引書を職員に配布し勉強会を行い、身体拘束はしていない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠せず、玄関鈴を利用し出入りに配慮している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎朝礼時に消火器の使い方、拡声器を使っての模擬訓練を実施している。避難訓練時には町内消防団の参加もある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士により献立が作成されている。調理法を工夫し、必要に応じ刻み食にしたり摂取量、水分量を記録している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを整備し実行に努めている。インフルエンザの予防接種は毎年実施し、必要時には看護師から指示を受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のホールは全体的に整理され清潔感がある。中央付近に円卓テーブル、またソファを配置し利用者が自由にお話しができるよう配慮している。壁面には利用者、職員の手作り作品が飾られている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には「野に咲く花」の名前が付けられ、職員手書きの花のれんがセットされている。居室は本人の生活に合わせて畳を取り入れたり、使い慣れたものを持参し本人が居心地よく過ごせるように配慮している。</p>		

 は、重点項目。